

委員からの意見（令和7年3月25日開催 令和6年度第2回宇目地域振興審議会）

（１）令和6年度佐伯創生推進総合対策事業の報告

天小委員

- ・ 藤河内観音滝の氷瀑ツアーやサバイバルキャンプは有料のイベントなのか？

小野振興局長

- ・ 参加者から負担金を取っている。以前、協力隊だった工藤さんがアドバイザーとなり限定20組という感じで実施している。

天小委員

- ・ 予算は地域創生なのか？

小野振興局長

- ・ 予算はエコパーク推進協議会から出ている。資料4ページまでが佐伯創生の事業で、5ページ以降は振興局が携わった関連事業として報告している。

河野委員

- ・ 情報発信のところで、SNS、TV、ラジオとあるが、だれがどのように情報を発信しているのか？
- ・ 特に SNS のバス釣り客向けダムの水位情報と登山関係、イベント情報とありますが、どこで誰があげているのですか？

軸丸総括

- ・ エコパーク推進室が情報発信している SNS です

河野委員

- ・ これは同じサイトで確認できますか？北川ダムの水位情報を見たいと思ったのでサイトを知りたい。

※エコパーク推進室に確認してくるため少し時間をいただく。

中楠

- ・ 野村補佐に確認し、水位情報は Ameba ブログのエコパークの歩き方で確認できること、登山関係、イベント情報はインスタグラムで随時、発信していることを報告。

（２）令和７年度佐伯創生推進総合対策事業の計画について

佐藤会長

・地域が輝くにぎわい創生事業の内容について、毎年同じ事業だが、新規の事業は上げられないのか？

軸丸総括

・このにぎわい創出事業については、１０割補助で、合併前から行われていたイベントに対して、補助金を交付するという取り決めがあり、各振興局で継続しなければならない、なくてはいけないイベントを守るといった趣旨で補助するもの。

・新しいイベントについては活力向上事業で上限５０万円の枠を活用していただく形となる。活力向上事業は３年までしか利用できないため、４年目以降実施する場合は自力で開催となる。

・昔からある地域の祭りなどを存続させるため、期限など関係なくにぎわい創出枠の中で対応している。

小野振興局長

・これだけは残していかないといけないという事業に対して計上している。特に木浦の「すみつけ祭り」は隔年実施だが４００年続くこの祭りを絶やすことはできないので予算を確保している。

天小委員

・この事業にはあまり関係ないが、最近「サル」が２０～３０匹の集団で現れると聞いている。

・サルの捕獲器など購入してサルの被害をおさえることはできないか？シイタケとか被害があるとよく聞くが？

小野振興局長

・サルについては釘戸や数日前には緑豊中の周辺にも出没したことを把握している。

・林業課と話をする中で、地獄檻で対応することをきいており、実際に釘戸に使用しているものを場所を変えて活用することのこと。

・移動してすぐに設置できるといったものではないが、酒利から河内で試してみようということになっている。

・振興局で対応は今のところないが、林業課が十分把握しており対応をしているところ。

軸丸総括

・地獄檻を設置してすぐにサルが捕獲できるわけではなく、サルが檻に慣れるまで十分に餌付けし、集まりきったところで群れごと捕獲するものなので、捕獲するにあたり、餌代がかかる。

・釘戸に檻を設置した時はＡコープに協力をお願いし、廃棄する野菜や果物を提供してもらい地獄檻に餌を供給し続けサルを捕獲したことを報告します。